

平成 23 年 6 月 20 日

日本技術士会 原子力・放射線部会 第 7 回全体会議 議事録

1. 開催日時：平成 23 年 6 月 17 日（金）13:00～13:55
2. 開催場所：日本技術士会 葺手第 2 ビル 5 階 A・B 会議室
3. 出席者：別紙参照（出席者総数：32 名）
4. 配付資料
  - 公益社団法人日本技術士会 原子力・放射線部会 第 7 回全体会議（総会）・新技術士講習会・特別講演会 次第
  - 資料-1：原子力・放射線部会 平成 22 年度事業報告
  - 資料-2：原子力・放射線部会 平成 23 年度事業計画
  - 資料-3：日本技術士会（原子力・放射線部会）平成 22 年度収支計算書
  - 資料-4：日本技術士会（原子力・放射線部会）平成 23 年度収支予算書（案）
  - 資料-5：公益社団法人日本技術士会 原子力・放射線部会規約（案）
  - 平成 22 年度事業報告および平成 23 年度事業計画（PPT 資料）
  - 平成 22 年度収支計算書及び平成 23 年度収支予算書（案）

5. 議事内容

(1) 開会宣言

議長の林部会長の宣言により、原子力・放射線部会第 7 回全体会議が開会された。

(2) 来賓祝辞

日本技術士会高木専務理事より、以下の祝辞をいただいた。

ー 3 月 11 日に発生した東日本大震災にかかわり日本技術士会に次に示すような支援依頼がきている。日本技術士会・技術士資格普及のために積極的に取り組んでいく。

- ・ 経済産業省より、福島第一原子力発電所事故で非難している住民の一時帰宅者のサポートをして欲しい。
- ・ いわき市より、災害復旧・復興の技術的支援をして欲しい。この依頼の前に日本技術士会では災害復旧に対応するためのデータベース構築を開始しているため、効果的な活用方策を検討している。

ー 日本技術士会は JICA と HP のリンクを設定し、国際協力にも力を入れている。原子

力・放射線部会も東日本大震災の復旧・復興支援に力を入れて欲しい。

### (3) 部会長挨拶

林部会長から、以下の挨拶があった。

- ・ 技術士（原子力・放射線）資格発足から5年で第二次試験合格者1000人を掲げてきたが、7年目となる現時点で381名と目標に届いていない。しかしながら、部会員は236名（会員198名、準会員38名）と組織率は、技術士会の部会の中で2番目である。この組織率の高さを有効に活用することで有資格者の増加をさせ、技術士資格の普及・活用に努めていく。
- ・ 部会として、福島第一原子力発電所の事故復旧・被災者支援に積極的に取り組んでいる。所属組織の一員としてはもちろん、技術士個人としてこの支援に協力して欲しい。

### (4) 総会出席者・委任状数報告

栗原幹事から、出席者数及び委任状数について以下が報告された。

部会員数：236名

出席者数：32名

委任状数：129名

合計：161名

以上より、全体会議成立条件である会員の過半数（118名以上）の出席（委任含む）が得られたため、全体会議は成立すると報告された。

### (5) 書記及び議事録署名人の選任

書記に中野幹事、議事録署名人に青木幹事が選定された。

### (6) 平成22年度事業報告及び平成23年度事業計画

桑江幹事から昨年度事業報告と今年度の事業計画について、スライド及び配布資料1、2に基づいて報告が行われた。昨年度以前の活動を継続していくとともに、今年度は福島第一原子力発電所復旧・復興を始め、東日本大震災への対応を積極的に行うことを計画していることが述べられ、以下のコメント・質疑があった。

C1；部会として東日本大震災の復旧・復興支援を積極的に行い、日本技術士会及び専門家としての技術士をアピールして欲しい。

Q2；福島対応W.G.を設置して活動しているとの事であるが、W.G.開催のアナウンスはどのように行われていますか。

A2 ; 震災直後に W.G.を設置したため、現状では部会幹事へのアナウンスに留まっている。積極的な活動推進のため部会員の参加は大いに歓迎する。今後の W.G.開催時にはアナウンス方策を検討したい。

これらの質疑の後に、事業報告及び事業計画は承認された。

(7) 平成 22 年度決算報告及び平成 23 年度予算計画

阿部幹事から、平成 22 年度収支報告及び平成 23 年度の収支計画案についての報告がスライド及び配布資料 3、4 に基づき行われ、以下の質疑があった。

Q1 ; 「寄付等」という記載があるが、部会を支援していただいている方の紹介をして欲しい。

A1 ; この寄付の大部分は部会幹事によるため、寄付を頂いた方の個人名は割愛している。ご了解いただきたい。

Q2 ; 「講演会・見学会開催補助金」が昨年度と比べて倍増しているが、何が変わったのか。

A2 ; 補助金の支給に関する規約が改訂され、支給最低額が 10 万円から 20 万円に変更となったためである。また、会員数（関東甲信地区）増加に伴い、補助金も増額する。部会活動活性化の資金という観点から、皆さんの周りの技術士の方に入会を勧めて欲しい。

これらの質疑の後に、平成 22 年度決算及び平成 23 年度予算は承認された。

(8) 部会会則変更

岡村幹事から、配布資料 5 に基づき、日本技術士会の公益社団法人移行等に伴う部会規約改正案が説明され、承認された。

(9) 部会長選出

桑江幹事が部会長に選出され、大橋幹事、後藤幹事、栗原幹事が副部会長に、林前部会長が相談役に指名された。

—以上—

-----  
この議事録は、議事内容に相違ないことを確認しました。

平成 22 年 月 日

議事録署名人 印

## 原子力・放射線部会 第7回全体会議 出席者リスト

	氏名	所属	
来賓	1 高木 譲一	日本技術士会 専務理事	△
新合格者	1 東 徹	ES東芝エンジニアリング(株)	△
	2 伊東 孝男(会員)	三菱重工業(株)	01○
	3 笠原 茂樹(会員)	日本原子力研究開発機構	02○
	4 川上 文明(会員)	旭化成(株)	03○
	5 小宮 雅男	日本アイソープ協会	△
	6 佐川 寛	三菱FBRシステムズ(株)	△
	7 鈴木 康隆(会員)	三菱原子燃料(株)	04○
	8 高柳 英彰	日本機械学会	△
	9 羽賀 一男(会員)	原子力安全基盤機構	05○
	10 松沢 薫	(株)アトックス	△
	11 芳中 一行(会員)	日本原子力研究開発機構	06○
部会員	1 青木 照美(総務)	日本原子力研究開発機構	07○
	2 阿部 定好(会計)	日本原子力研究開発機構	08○
	3 伊藤 晴夫(広報)	(社)日本原子力技術協会	09○
	4 伊藤 裕	(株)日立製作所	10○
	5 岡村 章(総務)	電源開発(株)	11○
	6 亀山 雅司	(財)発電設備技術検査協会	12○
	7 川辺 睦(総務)	岡山大学	13○
	8 栗原 良一(広報)	日本原子力研究開発機構	14○
	9 桑江 良明(総務)	電源開発(株)	15○
	10 後藤 廣(企画)	GOTO技術士事務所	16○
	11 佐川 渉(総務)	日立GEニュークリア・エナジー (株)	17○
	12 佐々木 聡(広報)	原子力安全基盤機構	18○
	13 嶋田 昭一郎	嶋田昭一郎事務所	19○
	14 白川 正広(企画)	富士電機(株)	20○
	15 鈴木 麻純(広報)	(株)アトックス	21○
	16 園田 幸夫(企画)	(株)東芝	22○
	17 高橋 一智(広報)	高エネルギー加速器研究機構	23○
	18 高橋 聡(広報)	日本原燃(株)	24○
	19 長澤 克己	東芝プラントシステム(株)	25○
	20 中野 智仁(企画)	(株)東芝	26○
	21 成川 薫(企画)	(株)東京エネシス	27○
	22 根岸 孝行(広報)	原電情報システム(株)	28○
	23 畑 孝也(総務)	原子力安全基盤機構	29○
	24 林 克己(部会長)	(株)日立製作所	30○
	25 山田 裕之	富士電機(株)	31○
	26 横堀 仁	三菱FBRシステムズ(株)	32○

○:議決権ありの出席者